

風水害に対して事前に備えておくべきこと

はじめに

近年、大規模な自然災害が発生しており、「いつ」・「どこで」 災害が 起こるかわかりません。

「自分の命は自分で守る」ことを意識し、自分の住んでいる地域の危 険筒所等を確認し、一人ひとりにあった防災計画を作成しましょう。

おうち時間 できる防災 始めよう!

● 備蓄・非常時の持出し品について

最低3日分 推奨1週間分の食料を備蓄しましょう。飲料水は1人1日あたり3リットル必要です。 (避難することを最優先に、可能な限り持参しましょう)

非常時の 持出し品リスト





下記のリスト以外にも、それぞれのご家庭の 状況に応じて準備をしましょう。

食品•水

□飲料水 口食料(乾パン・クラッカー 缶詰・チョコレートなど、火 を通さなくても食べられる物





救急•安全関係

□救急セット(絆創膏・傷 薬・包帯) 口常備薬





感染症対策

□マスク □アルコール消毒液 口体温計



日用品

- □筆記用具 □懐中電灯
- 口携帯ラジオ
- ロティッシュペーパー ロビニール袋
- □電池



衣類など

- □衣類(下着・上着) □タオル
- □毛布 口手袋、軍手



乳幼児のいる家庭

貴重品

□現金

□印鑑

□預金通帳

口免許証

- ロミルク(数日分) □ほ乳びん
- □離乳食
- □紙おむつ 口おしりふき
- ※紙おむつ等は、多めに準 備しておきましょう

その他

- 口洗面用具(歯ブラシ・石 けん)
- □スマートフォン(携帯電
- □モバイルバッテリー(充 電器・電池)

気象・避難情報等の収集方法について

災害時に大切なのは命を守る「情報」です。市では、さまざまな方法で、災害・防災情報をお知らせしています。 可能な限り、多くの情報収集手段を備えましょう。

- 防災行政無線電話再応答サービスのご利用 防災行政無線が聞き取れない場合及び放送内容を確認できるサービスです。 フリーダイヤルとなっておりますので、通話料金は発生しません。 また、電話帳に登録していただくと便利です。 0120-62-1281
- テレビの「dボタン」のご利用

テレビのリモコンにある「dボタン」をご利用ください。各種警報や雨雲の動き、河川の水位情報、避難情 報や避難所の開設状況など、さまざまな情報をテレビ画面で確認することができます。

久慈市公式LINE「LINE@」のご利用

OR⊐ード

スマートフォン用

QR⊐-F



LINEアプリの友達追加から、右のQRコードを読み込むか、ID検索「@kujicity」していただくと、防災情報 などを簡単に検索できる「LINE@」をご利用いただけます。

防災メールマガジンのご利用

「防災メールマガジン」に登録いただくと、スマートフォン、携帯電話、パソコンから、気象警報や注意報 など「防災情報」や「防災行政無線放送」の内容をメールで受け取ることができます。また、サービスは無 料で利用できますが、情報の送受信に関わる通信料等は利用者のご負担となります。

- ★メールマガジンの登録方法について★
- ①久慈市消防防災課ホームページにアクセス
- ※右のQRコードから登録サイトにアクセスすることも可能
- ②「メルマガ登録」のバナーをクリック
- ③登録画面からご自分のメールアドレスを入力し、登録ボタンを押す

浸水などから避難するときの注意点

- ④入力したメールアドレスに確認メールが届く
- ⑤メールに添付のURLにアクセスし、配信を希望するカテゴリを選択し登録ボタンを押す
- ⑥登録したメールアドレスに登録完了メールが届く
- ⑦手続完了

避難先について

- ・避難する場合は、市が開設している避難所の情報をテレビの「d ボタン」及び市ホームページ等で確認してから避難 するようにしましょう。
- ・避難所の混雑を防ぐため、安全な場所に住んでいる親戚や知人宅、ホテルなど宿泊施設への避難も検討しましょう。

気象情報・避難情報等について

警戒レベル1

心構えを高める

(例)大雨になりそう

警戒レベル2

避難行動の確認





(例)大雨注意報 洪水注意報



避難に時間を 要する人は避難



(例)大雨:洪水警報 氾濫警戒情報

警戒レベル4 避難指示

(例)土砂災害警戒情報

氾濫危険情報

(危険な場所から) 安全な場所へ

緊急安全確保 命を守る最善の行動

警戒レベル5



(例)大雨特別警報

動きやすく、安全な服装で

ヘルメットで頭を保 護し、靴はひもで締め られる運動靴にする。 裸足・長靴は厳禁。



足元に注意

道路が冠水すると足元 が見えにくくなり、側溝や マンホールに気づきにくく なる。長い棒などを杖代 わりにして歩くと安全。



単独行動はしない

避難するときは2人以上 でする。流されないように、 ロープで互いを結ぶ。





歩行可能な水深 の目安は約50セン チ。水の流れが速 い場合は20センチ 程度でも危険にな る。危ないと判断 した場合は、無理

をせず、高所で助



高齢者や傷 病者は背負い、 子どもには浮 き輪などを着 けて安全を確 保する。

上記を踏まえ、マイ・タイムラインを作ってみよう!